

1年間の防災教育の成果を共有

子どもも防災サミット



最後に、今後の取り組みをまとめたサミット宣言が採択され、それぞれが1年間で学び得た防災教育の成果を共有し合っていました。

国内外で注目される12歳教育

防災教育を基軸に、子どもたちの社会性を伸長させようと取り組んでいる「12歳教育推進事業」の総括ともいえる「第3回子ども防災サミット」が、2月10日に総合文化会館で開催されました。

子ども防災サミットは、当事業の根幹を成すもので、市内の全小学校から6年生の代表児童が集まり、各校で学習・体験している取り組みについて発表や意見交換などを行い、思考力と判断力を高め、生きて働く防災力を身に付けることを目的としています。

第3回サミットは、市内全域の小学校6年生約1150人が一堂に会し、石根・田野・国安・飯岡の各校による実践発表や参加児童によるパネルディスカッションが行われ、これから自分たちで取り組む防災対策などについて活発な意見が交わされました。



▲地域での聞き取り調査で学んだ自助と共助の大切さ、身近な物のできる家庭での防災対策、非常食の乾パンで作る料理、柿渋染めで作る防災風呂敷の紹介など、各校共に特色ある実践発表を行いました。

大人に近づき、自己判断もできるようになってきた12歳（小学6年生）に焦点を当てた当事業は、地域防災の担い手づくりの先進的事例として、国連の防災優良事例集で取り上げられるなど、国内外で注目されています。さまざまな学習や体験などを通して「知っている」から「している」防災活動へつなげようとする当事業で、将来の西条市を担う若い力が、着実に育ちつつあります。

第15回「防災まちづくり大賞」消防科学総合センター理事長賞 12歳教育推進事業に2度目の栄誉

災害に強いまちづくりに取り組む市の12歳教育推進事業が、消防科学総合センターと（財）日本防火・危機管理促進協会の主催による防災まちづくり大賞の一般部門において「消防科学総合センター理事長賞」を受賞しました。防災まちづくり大賞は、阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、地方公共団体等における防災に関する効果的な取り組みを顕彰し、災害に強い安心・安全なまちづくりの一層の推進に資することを目的として実施されています。



▲1月26日に東京都で開催された表彰式において、消防科学総合センターの山口均理事長（左）から表彰状が授与されました。

玉津校区連合自治会と今治造船(株)西条工場が災害応援協定締結 防災体制構築に向け地域と企業が連携

玉津校区連合自治会と今治造船(株)西条工場とが、「共助」の精神に基づき地域と企業が協力して災害による被害の防止や軽減を図ることを目的として「災害に強いまちづくり応援協定」を締結しました。

調印式の会場となった東予地方局では、自治会や今治造船(株)の関係者など14人が出席し、市長、佐伯隆志東予地方局長の立会いのもと、矢野咲雄自治会長と日高義信西条工場長による協定の調印が行われました。

地域と企業が協定を締結するのは県下初であり、地域と企業による実践的な防災体制を構築するモデルとして、今後の活動が期待されています。



▲調印後、締結者と立会人による固い握手が交わされました。（左から）佐伯地方局長、矢野自治会長、日高工場長、市長。